

## 第 176 回読書会(「ラッセルを読む会」)レジメ

日 時: 平成 22 年 9 月 11 日(土) 15:00~18:00

テキスト: In Praise of Idleness, and Other Essays, 1935(『怠惰への讃歌』)

### 第 10 章 一本調子の現代

#### ★ Homogeneous America.

In: Outlook and Independent (New York), n.154 (19 Feb. 1930), pp.285-287, 318.

Repr. as Modern Homogeneity in: In Praise of Idleness, 1935

#### □ アメリカ(合衆国)の2つの特色 (ヨーロッパ人旅行者、あるいはラッセルが気づく特徴)

- ① (昔の南部を除いて)アメリカ各地の様子が極端に似ていること
- ② 各地域が自分たちの郷土はユニークであり、他のすべての地域(地方)と異なっているということ  
を証明したいという強い欲求をもっていること(地理、歴史、伝説・・・)  
(cf.日本における画一化と郷土自慢/コンビニのチェーン、マスコミ、・・・(対)物産展、旅番組、各地  
のお祭りの紹介/マスコミの影響は大きく、その日の話題の多くは全国ほとんど同じ・・・)

実際に存在している均一性(画一性)が大きければ大きいほど、それを和らげるような違いを求めることに熱心になる。

#### □ この第2の特色は、第1の特色から生まれたもの

- ・ アメリカの農家の考え方は、(ヨーロッパやアジアと異なり)工業的であり、資本家的である。(機械や輸送、通信など、現代的な機器や手段を活用しており、生産物を送り込む市場のことをよく考えている。/カリフォルニアのオレンジ園とシチリア島のオレンジ園の違い)
- ・ アメリカ(合衆国)には、旧世界にみるような、工業家と農業家の立場の違いにあたるものがない。
- ・ アメリカは、人間が作った世界であり、人間が機械を使って作った世界。(養老孟司がいう「脳化」「人工化」社会)

#### □ 生活の物質的な面が同じ型にはまることはたいして重大なことがらではないが、思想や世論の面が同じになることは、より危険だろう。

- ・ 標準化の必要性和弊害(説教さえも、「模範説教」を参考にして・・・) /全国あまねく一定の大衆的感情を醸成するために・・・。(cf.現代における新聞やテレビの系列化・・・)
- ・ たとえば、ラッセルの著書に対する批評は、(独自の視点を打ち出せる)一流の新聞を除けば、ニューヨークからサンフランシスコまで、メイン州(アメリカ北東部の州/×マイン)からテキサス州に至るまで文字通り同じである。(ただし、北東から南西に移るにつれて書評の長さが短くなるという違いはあるが。)

#### □ 画一化の大きな例

映画(産業)は、現代世界(1930年)において画一化を推し進めるにあたって最も影響力がある。

- ・ 恋愛、結婚、出生、死亡等についての私たちの気持ちは、ハリウッドの処方箋のために標準化されてくる。(cf.現在ではTVのようなマスコミの影響の方が大きい。)
- ・ トーキーは間もなく世界的な言語(ただしハリウッドの言語)を用いるようになるだろう。  
(参考:トーキー(talkie)とは映像と音声同期した映画。発声映画の商業化への第1歩はアメリカ合衆国で1920年代後半に始まった。トーキーに対しては、チャップリンを含め、その芸術性に疑問がもたれていたが、1930年代に入るとトーキーは世界的な人気となった。)

○ どの書店にも同じようなベストセラーが積み上げられている。

- ・ アメリカの教養ある婦人が毎年買う本は 12 冊で、しかもどこにいても同じ 12 冊。これに対し、ヨーロッパでは、小数の本だけが大量に売れるのではなく、多数の本が少量ずつ売れる。

□ 画一化に向かう傾向には良い面と悪い面の両面がある。

(1) 画一化に向かう傾向の良い面

- ・ この傾向のために、仲良く協力できる人々が生まれる。

(2) 大きな欠点

- ・ 少数派を迫害しがちな人々が生まれる。

□ 米国のデモクラシー観の欠点

- ・ 個性を尊重しているようでしていない。(すでに独自性が認められている人はよいが、そうでない場合は、ヨーロッパ(特にフランス)におけるような個性は尊重されない。)
- ・ すでに出来上がっている優れたものに対しては、アメリカはどの国よりも賛美するが、目に見えない良さに対しては冷たい。(社会に屈しなくて成功した者に対しては過大な評価を与え、大きな報酬をもたらすが、・・・/アメリカン・ドリームを実現した人も多いが、実現できなかった人が大部分)

□ 標準化の良い点

- ・ 「標準化」は、例外的な個人にとってはためにならないかもしれないが、多くの普通の人々の幸福を増すことができる。
- ・ 普通の人々は、標準化のおかげで、自分の考えは聞き手の考えと似ているだろうという確信をもって述べることができる。
- ・ 標準化は国民の結合をうながし、政治をはるかに著しい意見の相違がある場合よりも、過激でなくする。(cf. 「支持政党なし」ということで多くの国民が一致している日本)

□ (米国と同じような)画一化のヨーロッパへの普及

- ・ 「画一化」は文明のどうしても避けられない一般的傾向
- ・ 国民間の違いが少なくなるにつれて、国際主義を実現することがしだいに容易になっていく。

↓

★ 標準化に対し過度に悲観する理由はない